

遠足の列大佛へ大佛へ

藤田湘子

中学校の修学旅行で東大寺に行った記憶がある。探せば写真もあるはずだが、イガグリ頭に黒の学生服だった。大仏殿の柱の穴を潜り抜け、天井の高さや大仏の大きさを確かに実感した。しかし、教師に引率されて自由時間があまり無かったのが残念だった。

奈良や鎌倉の子供たちは、大仏見学の遠足に出かけるのだろうか。大仏に続く長い長い列や時間を思うと、引率の教師が哀れにも思える。

昭和五十九年。一日十句修行二年目の湘子は、京都、奈良へも出向き、その日常を楽しむように平然と作句して見せていた。東大寺の中門から大仏殿に向かうような一句。前句は「鹿の子まだよろこび知らぬ毛づくろひ」

1984年 (s59.05.15作) 第七句集『去來の花』 鑑賞・轍郁摩